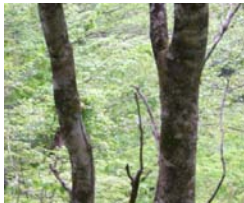
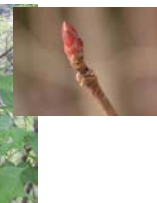


	和名(別名)	科名	備考		和名(別名)	科名	備考
31	ノムラカエデ(ノムラ)	カエデ科	広葉樹(園芸)	34	サルナシ(コクワ、シラクチツル)	マタタビ科	つる性木本
	 	落葉広葉樹。大きなものは高さ10mほどになる。葉の色が春から秋まで紫紅色した園芸品種。春に紅葉する珍しいモミジです。オオモミジ(大紅葉)系カエデ(楓)の園芸品種で、葉は大きく、春は暗紫色、夏は深緑色、秋は紫紅色となる落葉中高木です。葉は7~8裂します。半陰地や水分が好きで乾燥を好まない樹木ですが、紅葉が美しいのは日向で多少乾燥気味の場所に植えられたものといわれます。			     	花は白色で、果実はキウフィフルーツを無毛にしてかなり小さくしたような緑色の2~3cm程度のものに熟する。果実の味はキウフィフルーツに似ている。ツルは直径約5cm、長さは50mにも伸びることがある。非常に丈夫で腐りにくいことから「祖谷のかずら橋」(吊り橋)の材料にも使用されている。また、水を吸い上げる能力が高く、蔓の中にも大量の樹液を含み、樹勢の強い時期に太い蔓を切ると大量の樹液が出てくる。山中で飲用水が不足した場合に用いられることもある。	
32	イタヤカエデ(エゾイタヤ)	カエデ科	広葉樹	35	ハリギリ(センノキ)	ウコギ科	広葉樹
	     	落葉高木。土地をあまり選ばない。葉や果実等の形態変異が大きく、エゾイタヤは高さ25m、太さ1mになる。樹皮は灰色~暗灰色。若いうちは平滑だが成長につれて波状の縦じわが生じ、大径になると縦横に不規則な割れ目が入る。葉は十字対生する。葉の色は、新葉のころ緑黄色で夏場が濃緑色、秋には黄色となる。葉の形状は、長さ・幅が同じくらいで5~10cm、手のひら状に5つ又は7つに中~浅裂する。裂片は三角形。果実はへん平で2個に分裂し片側に翼がつく。翼は斜めに開出し長さ3~4cm。冬芽は無毛。			     	日本全土(特に北海道)・朝鮮半島・中国の山地に分布する。若木は枝や樹幹にとげがあるが、老木になるに従い鋭さを失い瘤になる。幹の樹皮に深く縦に入った筋(裂け目)がこの樹木を特徴づける。葉柄は長さ10~30cm、葉身は掌状に5~9裂し、カエデのような姿で径10~25cmと大きく、天狗の団扇のような形をしている。そこから「テングウチワ」と呼ばれることもある。秋には黄褐色に黄葉する。7~8月、黄緑色の小花が球状に集まったものが傘状につき、藍色の丸い果実を結び	
33	ヤマブドウ	ブドウ科	つる性木本	36	ミズキ	ミズキ科	広葉樹
	     	つる性の低木落葉樹である。随は褐色で、若い枝や葉にはくも毛がある。蔓(つる)は、葉に対生する巻き髭で他の植物等に巻き付き、高く上る。葉は10~30cm程の大きさで互生し、柄元に窪みのある五角形様で裏面に茶褐色の毛が生える。秋には、紅葉する。初夏に開花し、花は葉に対生する花柄に黄緑色の小花が多数着花する。萼(がく)は輪形で、花弁および雄しべは5つ、雌しべは1つからなる。果実は球形で秋に熟し黒紫色になる。甘酸っぱく、生食できる。			     	ミズキは北海道から九州までの日本各地、朝鮮・台湾・中国・ヒマラヤにも分布する落葉高木。ミズキの名前は、樹液が多く、早春に切ると水が滴り落ちるからであるという。そのような性質であることからわかるように、渓谷周辺などの水分条件の良い場所や渓谷斜面などに生育する。成長速度は速く、伐採跡などにも侵入し、土壌の良好な場所では優占することもある。葉は側脈が平行に走り、ミズキ科の特徴をよく示している。花は5月から6月のはじめにかけて咲く。花弁は4枚で雄しべも4本。	